



2025年10月28日開催 日立東大ラボ・産学協創フォーラム
「Well-beingスマートシティと東京への展開」

日立東大ラボが提唱するWell-beingスマートシティ

唐沢かおり

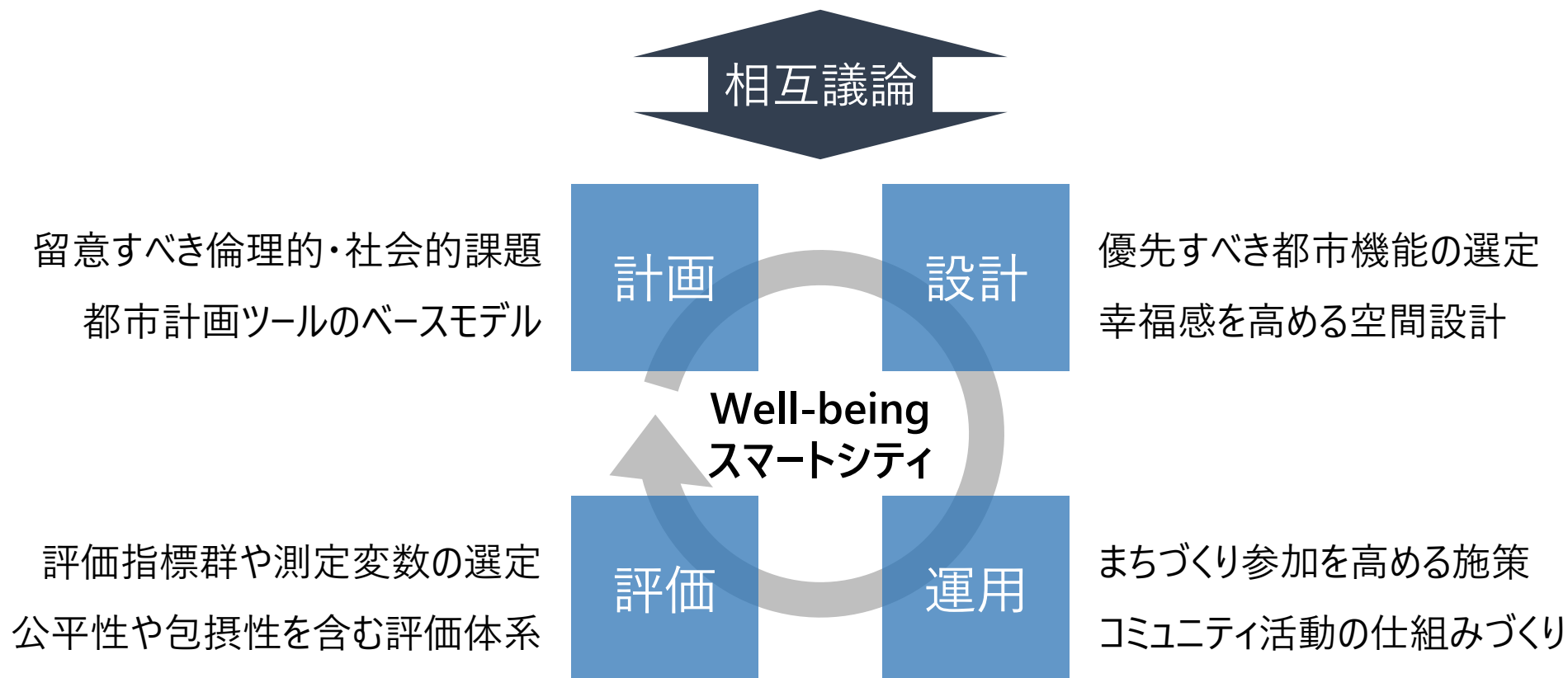
東京大学

大学院人文社会科学研究科 教授

- 1 WG3の位置付け
- 2 得られた知見
- 3 WBスマートシティの課題

WG3 ミッション

Human well-beingの解明 ⇒ Well-beingスマートシティへ
～どう把握できるか、何によって決まるか、どうあるべきなのか～



2-1. 得られた知見 ～ 研究成果一覧 ～

検討項目		得られた知見		本日報告
1. どう把握 できるか？	尺度調査	WBの構成概念・尺度	・ Well-beingの概念自体が多角的・包括的であり、複数の諸概念から構成されている ・ 「生きがい」「感情」「幸福」「WB」「QoL」「健康感」「満足度」「自尊心」「その他」に分類	
		自治体・民間企業の取り組み	・ 実務で使用されている10種類のWB指標（計386項目）の質問内容を分析 ・ 社会とのつながりに関する質問が突出、「生きる意味・価値の追求」に関する内容も散見	
2. 何によって きまるか？	人々が 求めるWB	人々が重視する領域	・ 健康状態、住宅環境、買物・飲食などを重視 ・ 地域の人間関係の重視度は相対的に低い、WBの高い人は重視傾向	
		些細な幸福体験の影響	・ 些細な出来事で感じる ①幸福レベルと ②頻度が、共にWBに関連 ・ 交互作用が見られないことから、①と②の和がWBに影響している模様	★
	コミュニティ 関連	まちづくり参加とWBの関係	・ パブコメや町内会など、一部の活動参加（＋行政への信頼）はWBと関連 ・ アンケートと町内会以外、まちづくりへの参加が極めて少ない	
		町内会におけるAI導入の受容性	・ AIに否定的態度を持たず、町内会への信頼が高い人ほど、AIの受容が高い ・ 年齢やAI利用頻度の影響は少ない模様	
		コミュニティ提供への受容性	・ コミュニティ意識や所属欲求が高いほど、コミュニティ提供欲求やWB向上がある ・ ただし、ネガティブな自己認知持つ人へのコミュニティ提供は注意が必要	
		地域活動とWBとの世代間差	・ 中高年層は、隣近所と交流（お裾分けなど）が盛んであるほど、WBが高い傾向 ・ 若年層では、地域全体の活動（町内会の運営など）に参加しているほど、WBが高い傾向	
		地域愛着に寄与する要因	・ 社会関係資本が充足しているほど、地域愛着が高い傾向 ・ 人口密度の（高／低）に応じて、（自然／利便性）の充足度が地域愛着に寄与	
		コミュニティ提供の種類と受容性	・ 地域活動（町内会、祭りなど）への参加頻度や意欲は軒並み低調 ・ 低調な中でも、自宅周りの活動（美化、リサイクルなど）や、隣近所との交流はやや高め	★
	移動・交通 関連	交通環境におけるWB要因	・ 鉄道での通勤時間を、自分のために過ごせると、移動時のWBが上がる ・ 移動体験の改善は、日々積み重なることで、人生全体のWBを向上する	
		歩行環境におけるWB要因	・ 身体活動を伴う移動行動が多い人ほど主観的健康度が高い ・ 歩行容易性認知が高い人ほど地域愛着が高く、主観的幸福度や主観的健康度にも影響	★
3. どうある べきか？	WBのあり方	倫理学・社会的課題	・ 科学技術ELSIの議論も踏まえ、WB向上介入の際に抑えるべき論点を整理 ・ 論点として多様性、適切性、正当性・公平性が重要	★

2-2. 得られた知見 ～ 些細な幸福体験の影響 ～

- 些細な出来事で感じる ①幸福レベルと ②その頻度が、共にWBに関連
- 交互作用が見られないことから、①と②の和がWBに影響している模様

些細な幸福体験

イベント

1. 店員さんがいい人だった
2. 横断歩道がちょうど青になった
3. 外に出たらいい天気だった
4. 買い物に行ったらいつもより安かった
5. 美味しいものを食べた
6. たまたま聞いた音楽が良い曲だった
7. いつもより目覚めが良かった
8. ふとした時に季節を感じた
9. 楽しかった思い出を振り返る
10. 趣味の時間を楽しんだ
11. 誰かと楽しく会話した
12. 自分の住んでいる地域で、芸術に触れた
13. 自分の住んでいる地域で、自然を感じた
14. 自分の住んでいる地域の人と、あいさつを交わした
15. 自分の住んでいる地域は、雰囲気がいと感じた

×

頻度

1. まったく経験しない
2. ほとんど経験しない
3. たまに経験する
4. とくとき経験する
5. よく経験する
6. かなり頻繁に経験する

主観的幸福度に対する重回帰分析

N=962

説明変数	β	95% CI	VIF
説明変数			
イベントに対する幸福感	.09 **	[.03, .15]	1.74
イベントの経験頻度	.16 ***	[.10, .23]	1.80
(幸福感) × (頻度)	.01	[-.05, .02]	1.04
統制変数			
性別	-.05 *	[-.10, .04]	1.20
年齢	-.09 ***	[-.14, -.04]	1.16
婚姻状況	.18 ***	[.13, .24]	1.27
学歴	.09 ***	[.04, .13]	1.05
居住地域 (人口密度)	.06 **	[.01, .11]	1.03
ポジティブ感情	.39 ***	[.33, .44]	1.29
ネガティブ感情	-.23 ***	[-.28, -.18]	1.07

まち中で感じる幸福イベントを増やしたり、些細な幸せに目を向けるように支援することで、WBが高まる可能性がある

2-3. 得られた知見 ～ コミュニティ提供の種類と受容性 ～

- 地域活動 (町内会、祭りなど) への参加頻度や意欲は軒並み低調
- 低調な中でも、自宅周りの活動 (美化、リサイクルなど) や、隣近所との交流はやや高め

調査した26種類の調査活動

結果については
当日の投影にて報告

26活動のクラスタ分析

N=387

結果については
当日の投影にて報告

まずは、自宅周りで活動 (防災など) の実施を促し、
その後、地域の全体活動に参加してもらうなど、段階化が必要

2-4. 得られた知見 ～ 歩行環境におけるWB要因 ～

- 身体活動を伴う移動行動が多い人ほど主観的健康度が高い
- 歩行容易性認知が高い人ほど地域愛着が高く、主観的幸福度や主観的健康度にも影響

「歩行容易性認知」の因子分析

N=989

【因子1】安全性

近所では犯罪の危険が高く、昼間に外を歩くのは安全とは言えない
近所では交通量が多く、外を歩くことに危険を感じたり、歩くことが楽しくなかったりする
近所には十字路や交差点がたくさんある
近所では交通量が多く、自転車に乗ることに危機を感じたり、…楽しくなかったりする
近所では犯罪の危険が高く、昼間に外を歩くのは安全とは言えない

【因子2】利便性

日用品を買うためのお店や、…などが、自宅から簡単に歩いていける範囲にたくさんある
バス停・駅などが自宅から歩いて10～15分以内にある
近所には、銀行、郵便局、医療機関、公共の施設などのような、歩いていける目的地が多い

【因子3】通行容易性

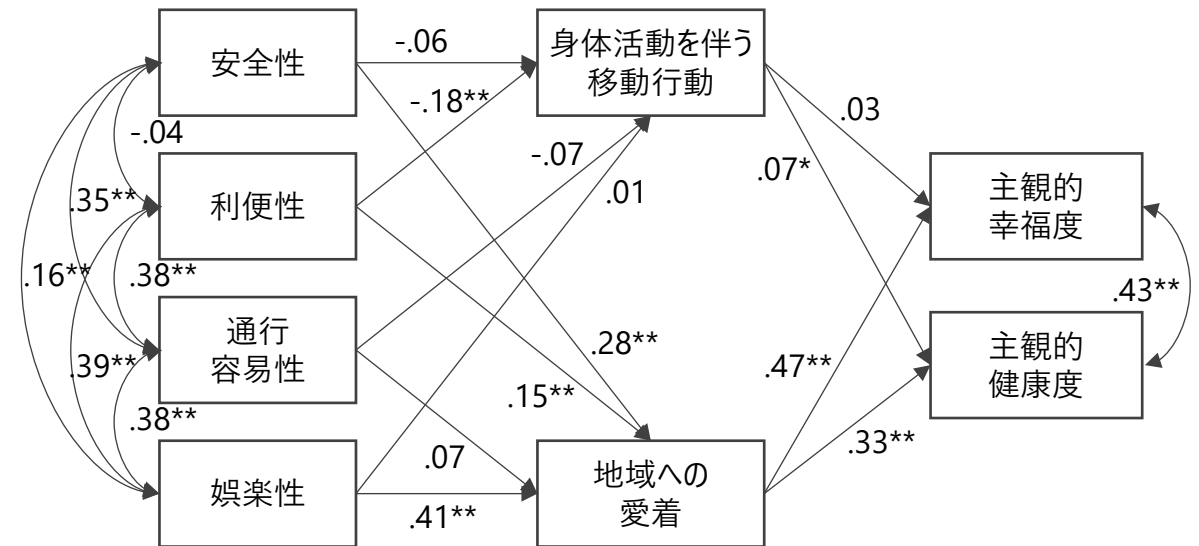
近所のほとんどの道路には歩道がある
近所の歩道はよく整備されていて、歩行する上で、障害はない
近所の道路はよく整備されていて、自転車の通行上、障害はない

【因子4】娯楽性

近所には、自転車レーン、歩道兼用の自転車レーンなどのように自転車が通行できるレーンがある
近所には、公園、広場、ウォーキング道路、…利用できるレクリエーション施設がいくつかある
近所では運動したり、体を動かしている人を多く見かける
近所を歩くと、興味を惹かれるもの(きれいな景観・楽しい景観など)がたくさんある

因子間の共分散分析

N=989



歩行容易性を高める都市計画によって、
幸福度や健康度が向上する可能性がある

2-5. 規範的検討を踏まえた制度設計へ

- 幸福概念に関する哲学・倫理学の理論と科学技術ELSIの議論を参照し論点整理
- 制度設計、施策導入が「WB」に資するための道筋に関するモデルの提案

人々のWBに関する様々な実証的知見

どう把握できるか？	尺度調査	WBの構成概念・尺度 自治体・民間企業の取り組み
	人々が求めるWB	人々が重視する領域 些細な幸福体験の影響
何によってきまるか？	コミュニティ関連	まちづくり参加とWBの関係 町内会におけるAI導入の受容性 コミュニティ提供への受容性 地域活動とWBとの世代間差 地域愛着に寄与する要因 コミュニティ提供の種類と受容性
		移動・交通関連
		交通環境におけるWB要因 歩行環境におけるWB要因

+

考慮すべき視点

多様性
多様な価値を反映できているか？
適切性
WBの内容を適切に検討できているか？
正当性・公平性
介入に際しての正当性や公平性が担保されているか？



WBの向上に向けたAI技術の導入について、その正当性、社会受容性、イノベーションへのインパクトを勘案しつつ検討する仕組み構築

1. 個人のWB評価のさらなる精緻化と評価システム構築
2. 考慮すべき点を踏まえた、当該コミュニティで望まれるWBのあり方の検討
3. 経時的なFBを踏まえて改善が可能な施策実施仕組みの構築

- 各種バランスのとり方や将来世代への考慮など、課題は多岐に渡る
- これらを考慮しつつ、制度・施策の導入を進めることが重要

バランスの 決め方

- WBの向上 (例：公園、交通網、施設) は、代わりに何かを壊す→ 何を壊すべきか
- 人との対面促進 VS. 感染症拡大のような、トレードオフの扱い方
- 都市開発と他の政策とのリソース配分をどのように考えるべきか

変数の多様性

- 個人のデータを完璧に測定することはできず、何かを見落とす
- WBに関連するパラメータは膨大であり、因果パスも複雑→ どうモデル化すべきか

将来世代の 考慮

- 今の人々からしかWBは測定できないが、人口動態は変化する
- 負債を残さない施策、失敗リスクの回避 → 歴史に学ぶ？
- 将来世代の価値観変化を踏まえ、どのような価値観の社会にするのか？

人の「善性」 への信頼

- 人の心の中には、道徳性、利他性は当たり前にも備わっていることを施策にどう反映するのか
- 道徳性・利他性の搾取に陥らないアプローチを「政策決定」にどう導入するのか



2025年10月28日開催 日立東大ラボ・産学協創フォーラム
「Well-beingスマートシティと東京への展開」

日立東大ラボが提唱するWell-beingスマートシティ

唐沢かおり

東京大学

大学院人文社会科学系研究科 教授